



キャトルステーションは、高齢化する畜産農家の省力化や、飼育頭数の増加を目的として、令和6年4月に大分県農業協同組合が竹田市久住町に次いで玖珠町大隈に開設したもので、農家から肉用牛の子牛を預かり、市場出荷まで共同飼育する施設として、年間360頭の受け入れを目指しています。

大規模管理による飼料コストの削減や均一な飼養管理による出荷子牛の品質向上のほか、就農希望者等の研修生へ技術指導を行うことにより、担い手の確保・育成の効果も期待されています。また、子牛を預託した農家では、空いたスペースを活用して新たに繁殖雌牛を飼養するなど、地域全体としての飼育頭数増加も図っています。

運営においては、近年の国際情勢や円安の影響等による輸入飼料や燃料価格の高騰、さらには子牛の市場価格の大幅な低下に伴い、設置当初の予定どおりに子牛の受け入れが推移していない現状をお聞きしたほか、施設のさらなる利用促進や畜産業の振興に向けて、県の支援に対するご要望も伺いました。

畜産業は県農業の大きな柱として期待されており、県としては、既存の事業を含む支援策を検討するとともに、キャトルステーションにおいても、地域の畜産農家への情報発信等により、利用促進に向け引き続きご尽力いただきたいとお伝えしました。

懇談風景



関連分野における県の施策(令和7年度)

☆事業名:【新】子牛育成技術向上対策事業

事業概要:県内のキャトルステーションにおける衛生管理対策の実証を支援し、実証で得られた知見を基に衛生管理プログラムを作成し、普及する。

予算額:800万円(実証に対し1頭10千円×800頭)

☆事業名:肉用牛施設整備総合対策事業(のうち生産性向上対策事業)

事業概要:生産性向上のための飼養環境改善に要する施設整備に対し支援する。

予算額:2,800万円(県1/3、市町1/6)

※【新】は令和7年度からの新規事業